公益社団法人 京都モデルフォレスト協会情報誌「以森伝心（いしんでんしん）」

以森伝心

理事長　柏原康夫筆

第10号
2010年4月

特集：インタビュー「煎茶道と森」
小川流煎茶六代目家元　小川 後楽氏

森林づくりの第一歩
緑の募金・森林づくり基金

森と木のナルホド講座
第6回「里山と生物多様性」

モデルフォレスト活動報告
活動にぐぐっと接近チーム以森伝心ニュース

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

綾部市　口上林

小川流煎茶六代目家元 **小川後楽**（おがわこうらく）氏

玉露一滴のなかに深山幽谷の真髄を感じる

急須などを用いて茶葉に湯を注いで茶を楽しむ煎茶道。中国の文化に由来し、古くは平安時代より嗜まれてきましたが、現在の形になったのは江戸時代のこと。

多数ある流派のなかで、小川流の煎茶手前の目的は「美味しい茶味」を得ること。いたずらに形式にこだわるのではなく、茶の本来の真味をひきだすための、必然的な手順の積み重ねを重視しています。茶の真味を引き出すため、日々茶を通して「自然」と対話してきた小川流煎茶六代目家元・小川後楽氏に、「煎茶」の歴史や作法に基づいた茶道と森林の関わりについて、お話をうかがいました。

茶道と聞くと、多くの人は抹茶を用いる“茶の湯”を思い浮かべるのではないだろうか。しかし元来、茶道とは湯を沸かし、茶をいれ、茶を振る舞うこと、また、それを基本とした様式や芸道のことを指す。

「茶は、中国から入り日本に広がりました。今では一般的に煎茶が飲まれているので日常品と思われがちですが、もともとは大変高級なものでした。実は、日本で庶民が一般的に煎茶を楽しめるようになったのは大正時代以降なんですよ」と、家元はまず、煎茶の歴史から切り出した。

元々中国では、古くは道教の僧である道士が薬として使ったり、庶民が食材として使ったりしていたが、唐の時代、茶聖と崇められる陸羽（りくう）が「茶の本来の利用法は薬や食材だけではなく純粋な茶味を楽しむことだ」として、茶の木の育て方、収穫方法と道具、製茶法（餅茶）、飲み方、歴史などを体系化し、『茶経』という書にまとめた。同時に、陸羽は詩人、書道家、史学家、地学家、文学家でもあり、風雅を好む文人墨客や知識人を家に招いては、茶と会話を楽しんだことから、喫茶の場がサロンのようになっていった。

「日本には、平安時代に遣唐使が茶を飲む習慣と茶の製法をもたらしました。当時の中国茶は現代の緑茶を餅状・団子状にし、沸騰したお湯に入れて飲んだそうです。煮だして飲むから“煎茶”とよばれ、天皇をはじめ上流階級の人たちの間だけで嗜まれたようです。鎌倉時代には、栄西によって茶の木と抹茶法が持ち込まれ、明恵の奨励によって、茶の栽培や茶を飲む習慣が武士を中心に普及していきました。このころから、お茶の飲み方が粉末状の抹茶を茶筅で撹拌する“茶の湯”が主流になり、安土桃山時代には大名や豪商の間にまで茶の湯が広がっていきました」

実はこの頃すでに中国では茶葉を煮だしてエキスを抽出する“淹茶（えんちゃ）（現在の煎茶）”が主流であった。もちろん日本にも手法は入ってきていたが、当時、権力を握っていた大名が“茶の湯”を重用していたため、あえて“淹茶”を嗜む人間はいなかった。江戸時代になると庶民にも「茶の湯」が広まっ

小川流煎茶六代目家元 **小川後楽**（おがわこうらく）

1940年、京都市に生まれる。1963年、立命館大学文学部日本史学科卒業。1971年、小川流煎茶家元を継承。1991年、京都造形芸術大学客員教授に就任。1979年、第1回訪中以後、現在までにおよそ四十回近く訪中。喫茶文化のルーツへの強い関心から、中国各地の名茶、茶の文化・歴史等の現地調査を重ねる。現在、京都造形芸術大学教授、同大学理事を兼任。関西学院大学非常勤講師、仏教大学客員教授。特定非営利活動法人和の学校理事。
主な著書 に、『煎茶入門』（保育社 1979年）、『茶の文化史 喫茶趣味の流れ』（文一総合出版 1980年）、『煎茶を学ぶ』（角川書店 1998年）、『煎茶への招待』（日本放送出版協会 1998年）、『煎茶入門』（淡交社 2001年）など多数。

平成 21 年、平安神宮での献茶式（左）
平成 22 年、初煎会にて（下）

た。それは同時に“茶の湯”の大衆化・遊芸化が進むことにもなった。そのころ、武家の好む茶の湯に反発する人々も現れ始め、朝廷や公家、国学者、漢詩家を中心に、今まで日の目を見なかった煎茶に注目が集まった。

「江戸時代中期に黄檗宗の僧売茶翁が煎茶を広めました。その時、本来の飲み方に沿った呼び名、“淹茶・泡茶・冲茶”ではなく、中国唐代や平安時代の、文雅な茶の世界に倣って“煎茶”と名付けました。つまり、茶の葉をお湯に浸して飲む茶道を煎茶道というようになったのです。特に煎茶道を好んだ著名人には江戸中期に『雨月物語』の上田秋成、後期には歴史家・漢詩家の頼山陽などがいます」

江戸時代後期以降、多数の流派が台頭したなかで、小川流の煎茶手前の目的は「美味しい茶味」を得ることであるとした。初代家元である小川可進は元々医者であったが、若いころから煎茶道への関心が強く、五十歳で煎茶家に転じた。

「初代家元が茶の味にこだわったのは、客人をもてなす気持ちの大切さはもとより、医者としての経験で“美味しく飲めるお茶は身体に良いもの”であることを知っていたからです。客に心身ともに快くなってもらいたいという気持ちの表れだと、私は考えています」

しかし、一概に美味しいお茶をいれるといっても、茶の味はその時々で異なる。茶葉の採れた産地による味の変化だけでなく、水勢、湿度、温度、気象状況、もちろん四季や朝昼晩という時間によっても違ってくるのだ。

「その時々でベストの味を出すためには、ひとつの型にとらわれるのではなく、どういれれば美味しい味になるのかを基本に考えなくてはなりません。初代家元は自然に関心を持ち、自然を観察し、体系的・合理的にまとめて小川流の煎茶道を確立しました」

小川流の茶道には「薬としての茶」「精神的な茶」「もてなしの茶」が織り込まれて形成されているのである。

お茶の木が生えているところといえば、すぐに茶園が思い浮かぶ。しかし茶の木は、元来、深山幽谷に育つものであった。水がきれいで緑深いところを好み、砂地で狭霧や川霧などが出て日光が遮断される所のものが特に美味しいといわれていた。

「中国では皇帝に献上する茶は、深山幽谷に育つもの、特に断崖絶壁に自生しているものを、庶民が命がけで摘んでいました。私もかなり前、茶の全てが知りたい、と中国の有名な茶の生産地である龍井村を訪れたことがありますが、緑豊かな山中で自然が美しく大変感動したことを覚えています」

煎茶道には老荘思想が大きく影響している。あるがままの自然である緑豊かな深山と清らかな水。それによって育つ茶の木は自然を具現化しているもののひとつではないだろうか。

「私は日々、煎茶道の作法を介して四季の移り変わりを感じ、茶を介して自然の尊さ、素晴らしさを感じています。日常生活で実際に深山幽谷に足を踏み入れることはないでしょう。しかし、お茶の一服の中には深山幽谷の味、香りが凝縮されています。玉露の一滴は自然の結晶だと思います。私はそれらをできるだけ多くの人に知ってもらい、深山幽谷の大自然を実感してもらう入り口になれたら……と思っています」

自然と対話していれられた茶は、一口含むだけで人を幸せにできるものなのだろう。それは、私たちが忘れかけた深山幽谷の霧の中でしか生み出されない、自然の結晶の味なのである。

行事紹介「葵祭煎茶献茶式」

日　時 平成 22 年 5 月 22 日（土）（献茶式）午前 10 時～
（煎茶席）午前 11 時～午後 3 時ごろ
料　金 6,000 円［茶席二席と小餐（弁当）席］
場　所 賀茂御祖神社（下鴨神社）
問い合わせ 小川後楽堂
TEL：075-721-7258 ／ E-mail：ogawaryu@dune.ocn.ne.jp

賀茂御祖神社（下鴨神社）で行われる葵祭の行事の最後をかざる式典。煎茶の流派では小川流のみが昭和 54 年から務めている。世界文化遺産に登録されている糺の森の緑に囲まれた境内で、厳かに神前へ煎茶碗が献じられる。その後、拝服席が、座礼・立礼の二席設けられ、色鮮やかな新緑のもと、喫茶を楽しむ人たちで境内は終日にぎわう。

※ そのほか、一般の方も参加できる行事が多数ございます。
詳しくは http://www.ogawaryu.com/ をご確認ください。

森林づくりの第一歩

緑の募金・森林づくり基金

森林・緑づくり

森林づくり活動や地域の緑化活動に対して、苗木や資材等の提供を行っています。

緑化啓発の推進

緑化思想の高揚を図るため、啓発活動をはじめ、木製品の利用促進やポスターコンクール、リーフレット等の作成を行っています。

皆様からいただいた寄付でこんな活動を行っています

学校緑化の推進

子どもたちの緑を愛し育てる心を育むため、学校による緑化活動に対して、苗木等の提供を行っています。

緑の少年団等の育成

森林や緑の大切さを学ぶ緑の少年団活動を推進するため、資材の購入、指導者の派遣など活動にかかる経費の助成を行っています。

2010 年は国際生物多様性年です。
森林は多くの生物に生息環境を提供し、生物多様性保全に欠かせないものです。
また、同時に地球温暖化は予断を許さない状況にあり、大気中の CO_2 を固定化できるのも森林です。
私たちの暮らしの安心と豊かさを守り続けてくれる森林。しかし、この恩恵を享受するためには、私たちが森林を守り育てることが大切なのです。
そのためには、私たちができることを少しずつでも実践していきましょう。

緑の募金・森林づくり基金にご協力お願いします。

緑の募金

■緑の募金とは

「緑の募金」は、地球温暖化防止に向けた森林づくりや、地域、学校の緑づくりを支援しています。

緑の募金は、「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき行われる募金で、森林の整備、緑化の推進、緑化啓発、青少年の育成などに活用されています。地球温暖化防止対策が重要視されるなか、二酸化炭素の吸収源となる森や緑づくりを行う緑の募金に大きな期待が寄せられています。

京都府においては、法に基づき公益社団法人京都モデルフォレスト協会が唯一知事の指定を受け、緑の募金を運営しています。運営に当たっては、学識経験者からなる運営協議会の承認を得ており、公平公正な運営を行っています。

森林づくり基金

■森林づくり基金とは

府内の森林づくり活動に用途を特化した協会が設置する基金のこと。運営に当たっては、学識経験者からなる運営協議会の承認を得ており、公平公正な運営を行っています。

優遇措置

寄付金には税法上の優遇措置があります！

当協会は、平成 21 年 11 月 2 日をもって「公益社団法人」に移行し、寄附優遇の対象となる特定公益増進法人となりました。

個人の場合は、特定寄付金として一定金額まで寄付金控除が認められ、法人の場合は、一般の寄付金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられています。

詳しくは、当協会ホームページをご参照願います。

企業と連動した寄付の取組も行われています

主な取組

アインズ株式会社
卓上カレンダーの売上げに応じた寄付の取組

飲料各社（アサヒカルピスビバレッジ株式会社、株式会社伊藤園、近畿ペプシコーラ販売株式会社、コカ・コーラウエスト株式会社、サントリーフーズ株式会社、株式会社ジャパンビバレッジ、ダイドードリンコ株式会社）
自動販売機の設置者と協力して、飲料の売上げに応じた寄付の取組

イオン株式会社
毎月 11 日のイオン・デーのお買い上げレシートの投函金額に応じた寄付の取組

株式会社ウエダ本社
複合機等の使用に伴い排出される CO_2 を、協会に寄付して森林保全活動に貢献することで相殺する仕組みを導入

京都トヨタ自動車株式会社
ハイブリッド車の販売台数に応じた寄付の取組

京都トヨペット株式会社
ハイブリッドカーの試乗実績に応じた寄付の取組

京都北都信用金庫
丹後天橋立大江山国定公園の指定を記念して発売した記念積金の契約口数に応じた寄付の取組

京都府ホンダ会
新車の販売実績に応じた寄付の取組

西日本旅客鉄道株式会社
J-WEST カード等の利用に応じて貯まるポイントの交換商品として、「カーボンオフセット特典」を設定し、その交換ポイントに応じた寄付の取組

ジュビラン株式会社
全国の代理店への商品卸売の実績に応じた寄付の取組

住商フルーツ株式会社
エコバナナの売上げに応じた寄付の取組

株式会社メゾネット
フットサル大会でのゴールやファウルなどのプレーに応じた寄付の取組

多額の寄付には感謝状を贈呈しています

多額の寄付をいただいた個人・団体の方には京都府知事から感謝状を贈呈していただいています。

これまでの京都府知事感謝状贈呈団体

京都トヨタ自動車株式会社／京都北都信用金庫／京都ライオンズクラブ／合同会社きょうと情報カードシステム／京都南ライオンズクラブ／京都洛陽ライオンズクラブ／京都乙訓ロータリークラブ／株式会社京都銀行／西日本旅客鉄道株式会社／ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン

森と木のナルホド講座

監修：(社)京都モデルフォレスト協会

日本の陸地面積の約 67%を占める森林。
日本は世界で有数の森林国です。
世界の中では森林に恵まれている私たちですが、
実際、どれくらい森や木のコトを
知っているのでしょうか？
ここでは、知ってるつもりでもよく分かっていない
森や木に関するナルホドをご紹介します。

第 6 回：里山と生物多様性

里山と人との関わり

里山とは「里にある森林（＝緑）」といえるでしょう。つまり都市と自然の間にあって、人が利用してきた森林を指します。

以前は、里山は人の生活に不可欠な存在でした。ひとつは、食料採取の場です。トチの実、木イチゴ、クリ、アケビ、カキ、ワラビ、タケノコ、シイタケ、シメジといった植物や、またイノシシ、シカ、ウサギ……といった動物など、あげるときりがないほど、たくさんの食べ物が里山にはありました。もうひとつは、燃料や肥料採取の場です。薪や落ち葉を拾い、お風呂やご飯の煮炊きや田畑に植えた農作物の肥料に利用していました。

それほど多くの恵みが里山にはあったのです。人びとは生活を支えるために、里山に入り、手を入れてきました。つまりはこれが無意識のうちに、さまざまな生物の生息場所を提供してきたのです。

しかし、1960 年代以降、燃料が木材から石油などの化石燃料へ、農業用肥料が化学肥料へ転換したことなどにより、里山は日常の暮らしから次第に遠のき、利用されず放置されていきました。それは里山の生物にも大きな影響を与えました。

里山の生物を取り戻そう

現在、都市化の進展に伴い、都市近郊の自然は開発され、身近な自然や希少な野生生物の減少を招いています。レッドデータブックに掲載されている絶滅危惧種の 6 割が里山に住む生物だという報告もあります。また、山の生態系が変わり、食べるものを失った動物が人間の居住区に現れることもしばしば耳にします。

それらを踏まえ、里山を見直そうという動きとともに、“生活に不可欠”という関わりとは別の形の関わり方がうまれてきています。

たとえば、地球全体の自然を理解するための環境教育の場としての利用や下刈りや間伐などのボランティア活動の場、レクリエーションとしての場などです。

現在、モデルフォレスト活動を通じて、森づくりに協力してくれている企業の活動フィールドも、もともと里山だった場所です。生活と表裏一体といった里山との付き合い方を見直しつつ、楽しみも交え、里山の利用や保全を行い、日本の原風景を守るとともに、生物と共存する活動にシフトしていくのではないでしょうか。

チーム以森伝心ニュース

企画：（株）Hibana

このページは、チーム以森伝心メンバーの活動を中心に掲載していきます。

「森林ボランティアのつどい」のリポート

日時：2010年3月7日（日）10時30分～15時
場所：府民の森ひよし（南丹市）

車座になって
森について語り合う

森林ボランティア活動を発展させ、京都の森林を守り育てて行くためにはどうしたらいいでしょうか？

普段から森林ボランティア活動に取り組む、モデルフォレスト協会会員や団体、そしてこれから活動を行いたい市民が集い、お互いの知識や経験を出し合いながら、京都の森林の未来を考える場が必要なのではないか。そんな思いから、チーム以森伝心メンバーの企画により、「森林ボランティアのつどい」を開催しました。あいにくの雨天にも関わらず、３月７日（日）、合計 35 名の参加者が府民の森ひよし（南丹市）に集い、野外料理や交流ワークショップを通じて親睦を深め、森林ボランティアの今とこれからについて話し合いました。

みんなで作る野外料理は、午前の交流ワークショップで役割分担を決定。バーベキュー、ダッチオーブン、おにぎりのチームに分かれて準備を開始しました。食材には鹿肉や地元の新鮮な野菜がたっぷりと用意され、メインにはチーム以森伝心メンバー持参の丸ごとの鶏も登場。火持ちの良いひよしの炭火で、メンバー、参加者共に薪炭料理に腕をふるいました。おにぎりチームは郷土資料館の古民家に移り、地元の方がご飯を炊いているおくどさんを見学し、炊きたてのご飯をにぎりました。また、地元特産の黒豆茶なども振る舞われ、木工研修館の大きな屋根の下で、勢揃いの豪華なごちそうを参加者全員が笑顔で頬張りました。

午後の座談会では舞台を古民家に移し、火鉢や炎のゆらめく囲炉裏を車座に囲んでの話し合い。テーマは参加者全員から募り、数の多かったものから「ボランティア活動の進め方」、「森の仕事について」などを選びました。約 20 分間と時間は短かったものの議論は深まり、話し合われた内容は各テーマのまとめとして発表されました。

最後はモデルフォレストアワーズの表彰を参加者の互選で行いました。これは事前に申し込まれた「京都森林インストラクター会」「森林・環境ネットワーク」「ギブアンドテイクの森林整備活動を考える会」の３団体と、当日飛び入り参加した「府民の森ひよし森林倶楽部」「大文字保存会」の２団体、計５団体から発表が行われ、それぞれの興味深い活動内容や、力強いメッセージに参加者は耳を傾けました。投票では子ども達に森をより楽しんでもらう活動、「森の楽校・森のようちえん」を企画・運営する「森林・環境ネットワーク」が最優秀賞となり、代表者の用澤修氏に、賞状と記念品の地元・ひよしの野菜詰め合わせを進呈しました。また、優秀賞に「京都森林インストラクター会」「大文字保存会」が選ばれました。

一日を通して、薪炭の恵みを充分に味わいながら参加者同士の交流・情報交換が積極的に行われた内容の濃いイベントとなりました。もっと時間と余裕あればよかったという意見がありました。この声を活かし、森林ボランティア活動を盛り上げて行くべく、交流の場を作っていきたいと思います。

おくどさんで炊いた
ごはんでおにぎりづくり

チーム以森伝心メンバーの一言

「一参加者としては、森と関わる素晴らしい仲間達と充実した楽しいひと時を過ごす事ができてとてもよかったと思っています。午後の座談会、活動発表会もいい勉強になりました。座談会は一カ所だけでなく別の組とも交流可能な時間的余裕がほしかったです。一方、裏方としては足りない部分も多く今後の課題としたいです。」（森）

「ちゃんとした立場を持ち、活発に活動している参加者ばかりでしたので、話が興味深かったです。もっと余裕をもって話を聞きたかったです。座談会では、小さい時分から自然と接して行く事が必要だと語り合いました。今回のようなかたちで、子ども会議をするのも、良いのではないかと思います。また、会場周辺の山が、傷んでいたのが気になりました。今回のイベントで縁も出来たので、これから一緒にやっていくことも考えていきたいです。」（家村）

「野外料理では全体が打ち解けました。交流では、テーマを決めて、集まって話ができた事が良かったです。時間が足りなかったので、話し合いを全体で共有できる充分な余裕がなく、残念でした。今後に生かしていきたいです。」（前田）

「バーベキュー、ダッチオーブン、おにぎり、最高でした。昼食時間の延長で、午後の話し合いの時間が短くなり、少し話し足りなかったような気もしますが、様々な方と膝を交えて、楽しい一時を過ごさせていただきました。次回は、子どもや孫を誘ってみます。」（宮本）

活動報告

森づくりセミナーを開催しました

２月 12 日、メルパルク京都に、森づくり活動に取り組む企業やボランティア約 50 名が集い、森林総合研究所の林知行さんの講演「木のガセネタを伐る～知っておきたい木材知識」や府内産材の利用促進の取組を聴講しました。

森林ボランティア活動安全講習会を開催しました

２月 28 日、府民の森ひよしに、府内各地の森林ボランティア 20 名が集い、林業・木材製造業労働災害防止協会京都府支部安全指導員の古屋昭さんから、安全な伐採の仕方やチェーンソーの取扱い方などについて講習を受けました。

森林整備体験教室を行いました

３月 14 日、京都市右京区梅ヶ畑の三井物産社有林に、協会会員など 20 名が集い、大文字の五山の送り火や鞍馬の火祭りで使用されるアカマツやコバノミツバツツジの育成のための広葉樹林の整備活動を行いました。

森林づくり活動にかかる協定締結

２月 15 日、サントリーホールディングス社が、全国の工場の水源区域の森林を整備する「天然水の森」づくりの一環として、木津川市、井手町、笠置町、和束町及び南山城村に広がる森林約 700ha の整備を行うため、活動地の５市町村、京都府、当協会と協定を締結しました。この協定に基づき、今後 30 年間にわたって針葉樹林や広葉樹林の整備、木材の有効利用などの取組が行われます。

豊かな森林づくり活動支援事業（第一期分）を募集します

民間の非営利団体が参加者を募り実施する植樹祭等の緑化イベント、森林整備・保全活動及び自然観察会等の学習会について、活動経費の助成を行います。助成制度の詳細、申請方法等は、協会ホームページをご覧ください。

・募集期間：平成 22 年４月１日～４月 20 日
・事業期間：交付決定日～平成 23 年３月 10 日
・助 成 額：謝金、印刷費、消耗品など 20 万円上限
※食材費など対象外あり

発行：公益社団法人 京都モデルフォレスト協会　入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。
〒 602-8054　京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町 104-2　府庁西別館内
TEL & FAX　075-414-1270　　E-mail　kyomori@kyoto-modelforest.jp
URL　http://www.kyoto-modelforest.jp
2010 年 4 月発行
企画・編集：自然堂（じねんどう）株式会社

PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は間伐材印刷用紙に大豆油インキで印刷しました。